

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600551		
法人名	株式会社 しらかば		
事業所名	グループホームたんぽぽ (あい)		
所在地	北海道帯広市東5条南14丁目1番地1		
自己評価作成日	令和元年10月31日	評価結果市町村受理日	令和2年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174600551-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174600551-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和元年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気大切に、穏やかに生活できる環境づくりをしています。</li> <li>・利用者全員で、ドライブへ行ったり、外に出て楽しむ機会を作り、仲間としてお互い助け合えるホームを目指しています。</li> <li>・利用者の残存機能を見極め自立した生活が出来るよう支援していきます。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は帯広市中心部から少し離れた交通の便の良い閑静な住宅街に位置し、鉄骨造り2階建て2階部分にある2ユニットのグループホームである。利用者は町内会行事の夏祭りや清掃等へ参加して地域住民と交流し、保育園の運動会を見物するなど園児との交流や敬老会ではダンス等を行うボランティアが来訪する等地域の人々との交流を深めている。職員は利用者の体調の変化に留意しながら、洗濯物たみや家事などできる事は無理せずに任せ、やりがいを見出すような支援をしたり、持っている能力を引き出すようなアプローチを行って、単にケア中心ではなく生活の充実を心がけている。利用者一人ひとりの希望を把握しながら動物園や競馬場、七夕祭りや菊祭り見物、紅葉狩りや外食ツアー、買い物等を行うなど外出支援を行っている。また、家族の協力を得て家族と一緒にの外出など季節毎に戸外へ出かけられるようにサポートしている。利用者は、家庭的な雰囲気の中で、体操や歩行運動をしたり、レクリエーションや気の合った人同士会話をする等、思い思いに楽しみながらゆったりと過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、毎日朝礼で唱和して日々の介護の実践につなげています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を玄関に掲示し、朝礼での唱和、各種会議で話し合って共有して、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しており、お祭りや清掃行事などに参加したり、保育所の行事見学や、園児のホーム訪問など交流できるようにしています。	町内会へ加入しており、夏祭りや清掃行事等へ参加し地域住民との交流を行っている。保育所の園児訪問や運動会見物など利用者にとって楽しい時間が提供されている。ボランティア来訪もあり交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加することで、認知症を患っていても、誰かの支援がある事により、普通に生活できることを理解して頂けるよう発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議時に、ホームでの取り組みや利用者状況の報告や話し合いを行い、サービスに活かしています。	年6回開催し、地域包括支援センター職員、町内会会長、民生委員、家族、母体法人代表等が参加して、運営状況や身体拘束、事故について報告し、意見や助言を得て運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と、日頃から連絡を取り、事業所の実情や取り組みを伝え、協力関係を築いています。	市の生活保護担当者の来訪のほか、介護保険認定調査手続きなど連携を取りながら関係を築いている。運営推進会議では地域包括支援センター職員による認知症高齢者の地域生活のための啓蒙や、情報交換を行い連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修に参加し、理解を深めています。また委員会でも身体拘束廃止に向けスローガンを掲げ、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止、高齢者虐待防止の委員会を設け内部研修会を行い、具体例による話し合いを行うとともに、外部研修に積極的に参加して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	言葉や身体的拘束、徘徊についてのマニュアルに基づき理解を深めているが、万が一徘徊が発生した場合の初期対応について、その模擬で体得し習得する事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会などに参加したり、委員会でも常に話し合い、虐待を見逃すことのない様、日々防止に努めている。		

グループホームたんぽぽ（あい）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修など参加し、必要に応じて活用できるよう関係者とも話し合い支援できる体制を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には十分な説明を行い、改定時は、文章を配布し不安や疑問点がある場合にも説明を行い、理解して頂くよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置したり、面会時に意見や要望をいただき、反映できるよう努めています。	意見箱を設置している。家族には、簡易なアンケート調査を実施したり、来訪時には意見を聞くなど、利用者や家族等の意見を運営に反映している。家族通信を上手に使うことで家族からの意見や要望を反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、ミーティング時に意見を聞く機会を設け、反映させるよう努めています。	毎月の職員会議や毎日の申し送り時において、職員の要望や意見を聴き、話し合える機会を設け、ケアや運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、給与水準や資格手当等の整備を行い、勤続表彰も実施しています。各委員会など役割を持つことにより、やりがい等持てるよう努めています。また、人事考課を導入し、向上心、目標を持って頂けるよう働きかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をはじめ、社内研修、社外研修への参加を働きかけているが、十分とは言えません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はほとんどなく、情報も十分とは言えません。		

グループホームたんぽぽ（あい）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人から話を聞く機会を設け、入居後も職員間で情報を共有し、安心して頂けるための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時は、ご家族と話をする機会を作り、面会時にも状況を報告し、困っていることや不安な事を聞けるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体状況や精神状況、家族の思いを把握し、その時に必要な支援を見極め、必要としているサービスが出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位に考え、コミュニケーションを多くとる事により、一方的に物事を決定しないよう努めています。また、家事など出来ることを、職員と一緒にすることにより、共に暮らす関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ生活状況を伝え、必要と思われる家族支援を提案し、本人と家族の関係を大切にしながら、職員と家族で共に支えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の友人や知人、親戚の方々が気軽に訪問できる環境づくりに努めています。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係ができる様に支援しており、家族と連携を取りながら馴染みの方との交流が取れるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が共通の話題を提供したり、レクリエーションを通して一人ひとり孤立しないよう、利用者同士が関わり合いを持てるよう支援しています。又、お互いが支え合えるような関係にもなっています。		

グループホームたんぽぽ（あい）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に相談など来ていただけるよう、働きかけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望をくみ取るよう努め、希望に添えるよう取り組んでいるが、困難な場合もあり、職員間で情報を共有し、検討している。	日々の関わりの中から、利用者一人ひとりの機能や意向を把握するよう努めており、把握したことについては職員全員に周知するような体制ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴やサービス計画書など、いつでも閲覧できる場所に保管し、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりにより、一人ひとりの現状を職員間で共有し、現状把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議などで話し合い、意見やアイデアの反映に努め、現状に即した介護計画を作成しています。	管理者や介護支援専門員が利用者や家族から十分なアセスメントをしている。又利用者の状況の変化が見られた時は、ケア会議を行ない、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や日常会話など、生活記録に記載し、ミーティング時に話し合い、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、その時々に必要な対応やサービスが行えるように、取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加し、地域社会との繋がりがもて、豊かな暮らしが出来るよう、支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った、医療機関の受診をして頂いています。	希望するかかりつけ医受診の継続を支援している。協力医による訪問診療が月2回あり、常に利用者の健康状態を把握し適切な医療を受けられるような支援をしている。	

グループホームたんぽぽ（あい）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度状況報告や、相談、指示を仰ぎ、適切な受診や看護を受けられるよう、支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換や、退院に向けての話し合いを行っています。また、退院後に必要なことを相談したり、病院関係者との関係づくりもを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、重度化した際の意向確認を行っています。また、医療機関との連携を図り、方針を確認し共有しています。	重度化や終末期における事業所として可能な支援内容については、利用者や家族の意向を最大限尊重し、事業所として出来ることを入居時に本人家族に説明をして、対応方針に同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、研修会などへの参加で、実践力を身に付けるよう、努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災時の避難訓練と、年1回の水害時の訓練を実施し、避難誘導がスムーズに出来るよう、訓練しています。また、地域との協力できる体制を築いています。	年2回の火災時の避難訓練と、年1回の水害時の訓練を実施し、訓練の記録を作成し、課題について話し合っている。ブラックアウトの経験により、母体法人は積極的に災害対策に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、トイレ誘導や入浴介助など、声掛けを工夫し、プライバシーを損ねない対応に努めています。	利用者の誇りやプライバシーを損ねない声かけ、対応に心がけている。トイレ誘導や入浴時など、誇りやプライバシーを傷つけないように優しく接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を取り入れ、衣類などは、自己決定できるよう、声掛けの工夫をし、支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、出来る限り本人の希望に沿った支援が出来るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の出張サービスを利用したり、希望する美容院へ行けるよう支援しています。		

グループホームたんぽぽ（あい）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、後片付けなど、その人の力を活かし、利用者と職員と一緒にしています。	食事の盛り付けから後片付けまで、利用者の能力を生かしながら食事を楽しむ支援をしている。菜園の収穫物を食材に使い食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士管理のもと、カロリー計算をしています。また、食事量、水分量はチェック表にて把握し、一人ひとりの状況に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けや、見守り、介助を行っています。また、就寝前に義歯を洗浄液につけ、清潔保持をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子を見ながら、排泄パターンを把握し、声掛けや誘導し、トイレで排泄出来るよう支援しています。	排泄チェック表をもとにパターンを把握して、トイレ誘導を行い、できるだけトイレで自然な排泄ができるように支援している。失禁時には清拭での対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士管理のもと、食物繊維を取り入れた食事を提供し、運動や水分を多く取るよう、配慮しながら予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングに合わせて入浴して頂き、個々の希望に沿った支援が出来るよう、努めています。	週2～3回の入浴を目安に、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。入浴が苦手な利用者にはタイミングを含め柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、お昼寝したり、夜は安眠出来るよう、音や明かりに注意し、気持ちよく眠れるよう、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的、副作用の理解に努め、服薬の変更があった時など、症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の役割を考え、洗濯物干しやたたみ、食事の盛り付けや後片付けなどの手伝いをして頂いたり、行事などを計画し、楽しみや気分転換が出来るよう支援しています。		

グループホームたんぽぽ（あい）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	十分とは言えないが、家族に協力して頂き、外食したり美容室へ出かけたりしています。また、地域の方々の協力もあり、町内会行事にも参加しています。	利用者の要望により、買い物や町内会行事に参加したり、家族同行でドライブや外食に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、本人がお金を持たないようお願いしているが、どうしても所持したい方は、希望に応じて、自己管理し、買い物など行かれた際は、自身で支払い出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を掛けれるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、温度管理をし、居心地よく過ごせるよう配慮しています。また、共用空間には季節の制作や行事の写真など飾り、楽しめる空間作りに努めています。	共用空間は広くゆったりしており、調理室や事務室からは利用者の動きを確認できるようになっている。壁には行事の写真や利用者の作品などが飾られて生活感が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合った人同士お話ししたり、独りになりたいときは居室で過ごしたり、思い思いに好きな空間へ行けるよう、支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人、家族が配置し、使い慣れた物や好みの物を持参されています。本人が居心地よく過ごせるよう支援しています。	利用者は馴染みの家具や寝具、仏具等を持ち込み、家族の写真や自作の手工芸品を多く飾り付け、その人らしく居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗しやすい表示については、わかりやすく表示するなど配慮しています。また、環境整備など行い、日々安全に自立した生活が送れるよう、工夫しています。		